

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ 2階		
所在地	盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=0390100170-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=0390100170-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年2月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木のぬくもりと日当たりが良く明るく温かみのある建物になっております。 職員の年齢層も幅広くそれぞれの持ち味を生かし入居者様とコミュニケーションがとれておりお信頼関係が築けている。  
他、入居者様の体力維持の為に毎朝、テレビ体操を実施、食事前の嚥下体操は時間を掛け各々、口以外の体操も取り入れております。  
地域のお祭りに参加したり防災訓練、イベントにも参加頂いております。開設当初より古新聞を届けて頂いたり旬の食材を頂いたりしております。  
今年は100歳を迎えられた入居者様がいらして皆様とお祝いをしました。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○平成22年に開設された新しい事業所で、ふんだんに使われた木の香りが残る。全体に広めに、ゆったりとした感じがある。居室には、やや大きめのベッド、広めの収納スペース、ヒートパネル、更に床には転倒時の怪我を防ぐためのクッション材が使われるなど、高齢者の生活に配慮した造りとなっている。採光も良く、明るい日が注ぐ暖かいリビングで、利用者はゆったりとした時間を過ごしている。  
○地域の町内会とは開設以来良好な関係が築かれ、汚れ物の処理に使う古新聞の提供を受けたり、町内会の役員には運営推進会議の委員として参加してもらっている。特に1年交代の町内会班長経験者にはそのまま班長退任後も委員をお願いしている。また、民生委員の紹介で、ボランティアによる尺八演奏や、お菓子作りなども行っている。防災訓練にも町内会の協力を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場で基本理念の確認する場を設けることにより、職場のモチベーションの向上につながる。常時掲示板と職員トイレ内に貼り周知徹底を図っている。	理念は、「…心の声を聴き、地域や自然とふれあい、自分らしく過ごせる…自由で喜びのあるホームを目指す」ことである。開設当初に当時の職員が検討して作った理念で、特に「自由」と言うことを大切にしている。	日常の介護に理念を更に生かすために、ミーティングなど職員が集まる場で確認し、共有する機会を増やすことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会長、総務部長、班長、民生委員、前年度班長に運営推進の委員になって頂いております。近隣の方々には、古新聞や旬の物を届けて頂いたり、おやつ材料を持って来て頂き、実際に職員と入居者様と共に指導して頂いております。	町内会の行事や作業では、ゴミ拾い、下水道掃除などに参加し、更にイベントではお祭りなどに参加している。また、施設の行事の時は町内会にも招待状を出して、参加してもらっている。ボランティアで尺八の演奏やお菓子作りなども行ってもらったこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員や近隣の方々には避難誘導の援助要請を行うなど、連携が円滑に図れるようご協力頂き努力しております。また折々の催事にも参加頂いております。町内の行事にも日程が許し限り参加させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時に施設で困っている事や利用者の状況や行事、年2回の避難訓練等を報告、感想や意見等を頂き、サービスの向上に努めている。	委員としては、町内会から会長のほか総務部長、班長にも加わってもらっている。また、ゲスト的に駐在所のお巡りさんに、防犯に関する講話をしてもらったこともある。民生委員からボランティアを紹介してもらったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定の相談、生保の方への支援の相談や運営推進会議の報告、その他、盛岡市からの情報提供がメールで送信されるなど、協力関係は築けている。	運営推進会議の内容は、その都度、担当課にFAXで報告している。介護認定、苦情などに関する相談についても対応してもらっている。市からは、メールで各種情報の提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員、推進委員の方がに玄関の施錠について意見を求めたが職員は施錠している事が拘束にあたる認識は持っているが現状では開錠することについて不安がある意見が多かった。今後も話し合いを続けて行く。	身体拘束も含めた、グループホーム協会の研修には毎年参加し、受講者から職員に研修内容を伝達している。言葉による拘束についても、日常の介護の中で注意している。玄関に施錠をしないケアについては、現在職員、家族の意見を聞きながら、対応を検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は入居者様の様子を常に観察し事業所内で虐待が起きていないか注意を払っております。防止策として入居者様の変化に伴い早めに介護方針を職員と話し合う事にしております。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要な入居者様がいらした場合は活用できるように今後も勉強会等に参加し理解を深めていきたいと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族から十分な聞き取りを行い、その後、重要事項説明書で施設利用について説明を行っております。家族は理解・納得されていると思っております。疑問がある場合は、誠意を持ち対応しております。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際はできるだけ管理者か職員が意見・要望をお聞きするようにしています。意見が出た場合は臨機応変に対応し、職員間で周知徹底できるよう、連絡ノートに記載し対応に努めています。	家族とは、来訪時の面会時のほか、電話でも連絡を取り合っている。家族からの意見・要望等は、連絡ノートに記載して職員間で認識の共有化を図っている。また、家族からの、食物、衣類等の日常生活に関する個別の要望についても対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議および全体会議等への出席、緊急会議の招集の指示を出し、問題を先延ばしせず解決するようにしている。共有フォルダーでタイムリーな情報を共有できるようにしている。	職員からの事業所に対する意見・要望等については、施設長が直接受けとめている。職員が参加する会議としては、ケース会議、年に1~2回程度の全体会議、緊急時の緊急会議がある。今回の自己評価も管理者が主に作成し職員の関与が少ない。  運営に現場の声を反映させるとともに当事者意識の醸成のため、全体会議等の機会を増やし、管理者とのコミュニケーションが図れるようにする等工夫頂くよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は業務に専念できるよう請求。小口処理業務は本社で行っている。職員の疲労が蓄積しないようなシフトや有休が使えるよう配慮。希望休みがある場合は可能な限り応えるようにしている。外部研修受講等は勤務としての扱いをしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事として内外の研修に参加するよう働きかけており、また、資格取得等については休日や有休等の配慮を行っている。また、介護福祉士等の資格取得をした場合、資格手当を支給する。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH教会や地域のグループゲーム協会に加入した協会主催の会議に参加、タイムリーな情報収集に努め、参加している同業者との交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や不満がある時は話を傾聴し、少しでも不安が軽減するよう努めています。また、こちらから声掛けをし話しやすい雰囲気を作るよう職員間で努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお話を伺いながら信頼関係が構築できるよう努めている。また、入居後の様子を家族へ報告し少しでも安心して頂ける様、配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人および家族それぞれの要望、本人の能力や身体状況、医療との関わりを見極め他のサービスを紹介することもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者が生き生きと笑顔で過ごしていただけるのか変化がないか常に目を配り入居者、職員が互いに支えあっているという意識を持って生活している。そして他入居者との良好な関係が築けるよう考えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報を都度家族へ報告し共有するように努め本人の意向をお聞きしながら支えていけるよう努めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの人達との関係が絶たれないよう訪問しやすい環境を心掛けている。町内の入居者は地域の行事に継続して参加していけるよう地域の方々の協力を得て援助している。	利用者は、経年とともに相手(来訪者)を識別しにくくなってきており、来訪者は減少しているが、馴染みの人たちが来訪しやすい環境づくりに努めている。墓参や実家への訪問などについても家族を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活や本人の性格、言動を観察し利用者同士の関係を把握しトラブルが起きないように支援している。また、どうしても他者との関係が築けない利用者は職員が間に入り孤立しないよう配慮している。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に退去された場合でもオムツ届等の協力は行っている。また、ご家族の要望や他介護施設の情報提供、問い合わせ等、できる限りの協力は実践している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴の姿勢を持ち、利用者への対応を行っている。また、その事はケース会議で検討し、個別援助計画に活かす事と、職員間で共有できるように申し送りノートを活用する。	理念は、「あなたのそばにいて心の声を聴いています」と定めている。利用者は入浴時や就寝のための着替え時など、職員と1対1になった時に、真情を吐露することがある。それらの思いを大切に、職員間で共有するようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族からできるだけ多く情報を提供してもらったが、独居の方等は情報が少ないことが多い。入居後、本人および面会の家族等から新しい情報を得る事もある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動、体調や表情等から状態を察知し、都度対応すると共に、職員間で日々の変化や本人のできるこ、できないことの把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り等から常に利用者の状態変化に目を向け変化に応じて都度、ケース会議を行い、現状に合った個別援助計画を作成するように努めている。	介護計画は、本人、家族の意見・要望を聴きながら、また、担当職員の日頃の課題把握等により、ケース会議で検討・協議し作成している。会議は、案件によっては利用者・家族を入れて行うこともある。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中、夜間の様子を日誌に記録保管されており、職員は毎日目を通し、特別な変化等は申し送りノートを活用、情報伝達に漏れがないよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応あるいは入退院の対応等、柔軟に対応できるよう人員を配置。家族からの突然の要望にも柔軟に対応するよう職員は心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、地域のお祭りには利用者と共に出掛けるなどしている。また、町内の老人クラブに加入されている入居者は地域の方々の協力を得て継続して参加されている。また、外出の際、万が一のためGPS携帯を持参されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向を尊重し対応して頂いている。少しの変化を見逃すことなく、電話で相談援助を受け対応している。夜間、休日等も往診していただき、入院が必要な場合は入院先の手配、家族への説明も行っていたりしている。	従来のかかりつけ医を継続しているのは、2ユニット併せて6名で、他は協力病院をかかりつけ医としている。受診対応は大半が事業所で同行し、家族に結果を報告している。月に一度の訪問診療を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが急変時は協力医に報告し相談。適切な医療が受けられるよう支援している。また、緊急性がある場合は救急車を要請し前もって家族から聞いている病院へ搬送を心掛けている。その後、経緯は協力医へ報告。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族の負担を経験するためオムツ洗濯物、必要品の対応を実施している。また、入院前の情報も医療機関に正確に伝達している。医療機関からの経緯については家族と共に同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は重要事項説明の際、主に家族へ説明しているが地域関係者と共にチームで支援する取り組みはされていない。入居者の状態に応じて終末期の対応は家族と十分に相談しながら進めていかなければいけないと考えております。	看取りに関する指針は、「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」として定めているが、これまで看取りの経験は無い。入居者から希望があり、事業所側の条件が許せば、対応することとして、入居時には重要事項説明の際に説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、職員は緊急連絡網の整備、消防車、救急車の要請時の通報訓練、避難訓練を実施、実践力を身に付けている。また職員は外部研修に参加応急手当を勉強している。個別の緊急対応時のマニュアルも職員の目立つ場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の緊急連絡網を了解を得て作成しており災害時は協力を要請出来るようになっている。非常通報ボタンを押せばセキュリティ会社につながり、そこから本社担当者に連絡が入るシステムになっている。	消防機関の立会の下、年に2回の防災訓練(避難、消火)を実施している。地域の町内会には入居者の避難後の見守りについて協力を得ている。運営推進員も含めた緊急連絡網の電話連絡の訓練も行う。職員は一、二階それぞれに1人の防災委員を配置している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し自尊心を傷つけないよう配慮した声掛けを心掛けている。記録等の個人情報の取り扱い等、様々な面でプライバシー保護を行っている。	プライバシーの確保については、全社員が受講する社内研修の中で、取り上げられている。個人の尊厳にも配慮し、声掛けなどで注意している。利用者一人ひとりを尊重した対応、羞恥心を傷つけない対応に心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が想いを伝えられるような環境を作りなるべく選択の幅をもたせるよう心掛けている。自己決定が困難な方には無理強いせず職員を変えたり、時間を置きながら対応している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた個別支援に心掛けているが、余裕がなく都合を優先していることもある。食事時間や入浴時間は柔軟に対応するように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に沿い、美容室へ外出させたり、近隣(運営推進委員)の理髪店に来て頂き会話を楽しみながら支援して頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わって頂ける様なるべく旬の食材をメニューに取り入れている。また、食事作りの際は下ごしらえ等、交代でお手伝いして頂いている。食後の片付け等も楽しく会話されながら行っている。	献立は、社内4事業所が同じパソコンソフトを利用して立て、調理は職員が行っている。献立は、バラエティに富んでいて、栄養面でもバランスがとれていることが計数的に裏付けられている。季節の食事、行事食、柔らかい食事、外食など個別の事情への対応は可能である。調理の手伝いにも、入居者のうちできる方は参加している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて食事量、柔らかさ等、個別にチェックし職員全員で把握するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、食後の口腔ケアを徹底実施している。また、義歯洗浄剤の購入なども職員が対応している。清潔、風邪予防のため食前のうがいも徹底している。困難な方には職員がスポンジ等で対応している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重した声掛けや誘導を行っている。排泄のパターンをチェック表で確認しながら一人ひとりに応じた対応を行っている。また、主治医との連携のもと水分摂取や薬等を使用しながら支援している。	半数以上は基本的に自立しているが、チェック表などで確認しながら、声をかけてできるだけ自力で対応できるように援助している。羞恥心にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、乳製品の摂取等で日々、工夫はされているが改善が見られない場合協力医、主治医に相談し薬を処方して頂く。また、排便チェック表への記録をもとに服薬管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に考慮し、かつ、本人の意思を尊重し入浴の声掛けを行い対応している。入浴に抵抗がある方には職員を変えたり工夫ある誘導を心掛け最低限の清潔保持を確保する。入浴時間は午後からとなり1日3名位で行っている。	入浴は3日に1度で、一日3人が基本で、午後1時から3時の間となっている。入浴を嫌がる方は少ないが、さまざま試行錯誤を重ねて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく無理強いをせず可能な限り本人の自由に生活していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人日誌に綴り、職員がいつでも確認ができるようにしている。個人日誌、服薬情報の欄にも薬名を表記しており、変更になった場合等は随時変更。服薬時も職員は袋に表記されている名前を呼び、その後、本人確認、介助する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に添えるよう、外出の機会を増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の能力や希望に応じた対応を心掛けている。春先や初夏はなるべく少人数で散歩するよう心掛けています。また長椅子を購入し、皆さんで外に出られるよう配慮しております。時間が許す場合はチャグチャグ馬っ子等、見学に外出しています。	日課としての散歩のような習慣的な外出は無い。夏は菜園や鉢物の手入れなど行うが、寒い時期は戸外へ出る機会が少なくなる。行楽の時期には、小岩井、チャグチャグ馬ッコ、玄武洞、雫石などへ出かけ、忘年会は、つなぎ温泉のホテル紫苑で楽しんだ。	外出は、気分転換や五感の刺激の機会としても重要であるとされている。季節や天候にもよるが、習慣的な散歩をはじめ毎日の外出の機会を増やすよう工夫されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者がお金を所持されていない。1名の方は近隣の方で買い物や外出を自由にされている。GPS携帯		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了解のもと、電話の要望があれば柔軟に対応している。手紙を書き職員にポストへ入れるように話される方もいる。年賀はがきや氏名を書いてもらう等支援している。1名の方は携帯電話で家族とやりとりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は木の温もりがあり明るい場所になっているため日中は日差しが入り、冬場は暖房が無くても温かい。畳の敷かれた空間もあり、そこで新聞を見たり洗濯物をたたみながら談笑したりするスペースがある。掲示スペースは行事の写真を貼ったり季節に応じた飾りつけがされている。	事業所は広く、明るく、全体に木材がふんだんに使われ、温かく、柔らかい雰囲気である。利用者は午後のひとときを、陽が差し込む明るいリビングで、トランプ、かるた、歌などを楽しみながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一人になりたい時は居室で過ごされたり馴染みの方を居室へ招いたりされ、お話されている。また、畳の間や玄関のベンチ、2階はベンチから外を眺めたり自由に過ごせるように援助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくお使いになっていた物を持ってきて頂けるように家族へ話しており、ソファや筆筒、自作の人形、家族の写真、ラジオ、テレビ等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	居室には、やや大きめのベッド、作り付けの広いクローゼット、パネルヒーターが備えつけられ、入居者はそれぞれ必要に応じて、テレビ、机、整理ダンスなどを持ち込み、自分なりの雰囲気を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、廊下はクッション材を使用したり、居室に名前を印刷したりトイレ、浴室、洗面所に張り紙でお知らせする事で出来るだけ自立した生活ができるように工夫している。		